

経営比較分析表（令和4年度決算）

大分県 豊後大野市

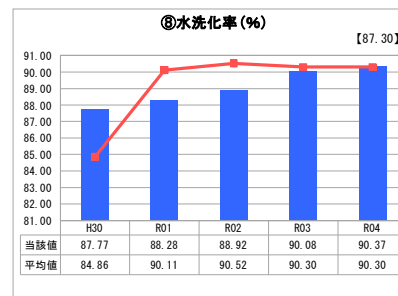
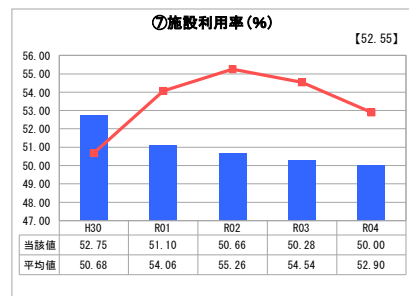
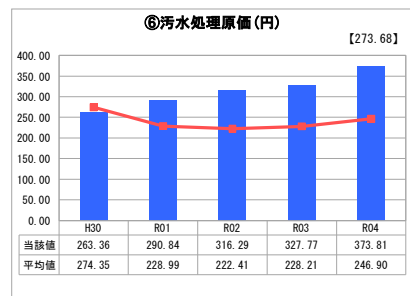
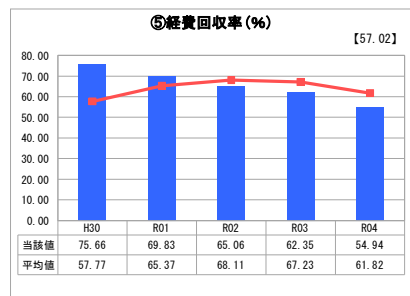
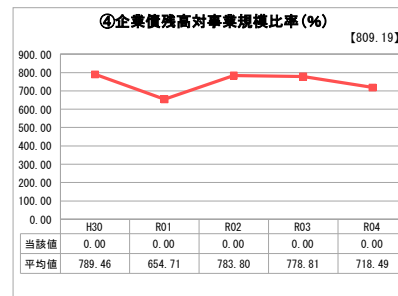
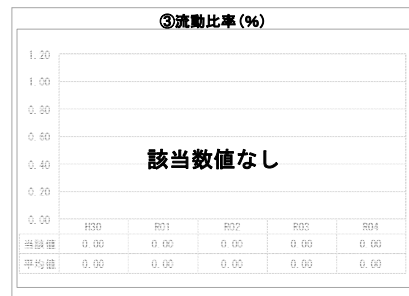
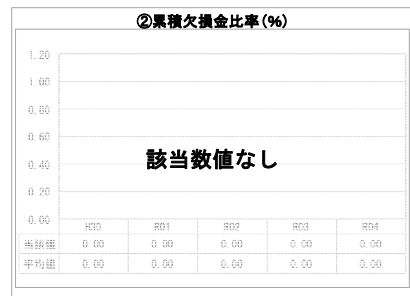
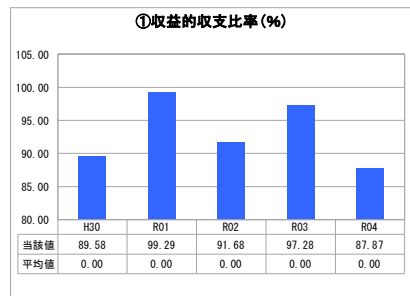
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	8.21	89.77	3,680

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
33,415	603.14	55.40
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,722	1.51	1,802.65

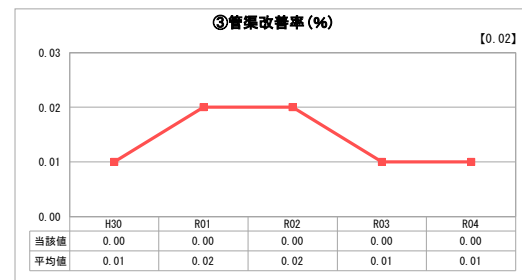
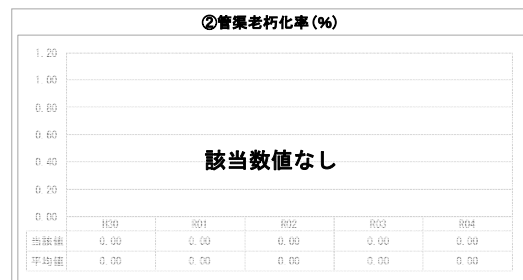
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 『収益的収支比率』・・・総費用に地方債償還金を加えた費用を総収益でどの程度賄われているかを表す指標。総収益の減などの影響により比率が低下した。
- 『企業債残高対事業規模比率』・・・使用料収入に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標。
- 『経費回収率』・・・使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているかを表した指標。人口減に伴う使用料収入の減少と、委託費等汚水処理経費が増加しているため回収率が低下している。
- 『汚水処理原価』・・・有収水量1m³あたりについて、汚水処理に係るコストを表した指標。処理人口の減少等により年間有収水量は減少しているが、委託費等汚水処理経費が増加しているため汚水処理原価が上昇している。
- 『施設利用率』・・・処理能力に対する汚水処理量の割合で、施設の利用状況を判断する指標。全国・類似団体平均を下回っている。処理人口の減少等により1日平均処理水量が減少していることから、徐々に利用率が低下している。
- 『水洗化率』・・・実際に水洗便所を設置して汚水を処理している人口の割合を表した指標。徐々に改善し全国平均、類似団体平均とほぼ同程度であるが、更なる接続率の向上対策に努める必要がある。

2. 老朽化の状況について

- 『管渠改善率』・・・当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標。供用開始後30年を超える施設もあるが、今のところ大きな事故もなく運用できている。今後も定期的な調査を行いながら、事故防止に努め適切な維持管理をおこなっていく。

全体総括

供給開始から30年を超える施設もあり老朽化は徐々に進んでいるものの、今のところ大きな事故なく運用できている。経営については水洗化率は徐々に上昇しているものの、処理人口が減少していることなどから、経費回収率、汚水処理原価等徐々に悪化しており、健全で効率的な経営が難しくなっている。今後も定期的な点検を行い施設の長寿命化を図りながら、経営の効率化に努める必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。